

新型インフルエンザ騒動も記憶に新しいですが、いつの時代も未知の病への不安は尽きないものです。

安政5年(1858)、長崎から入ったコレラが全国的に猛威を振るいました。三日ころり・半日ころりなどと呼ばれ、致死率が高く伝染のスピードも異常に速いコレラは、当時の医療での治療はほぼ絶望的でした。江戸近辺では東海道吉原宿(現静岡県富士市)での流行を皮切りに東海道を北上、先行して様々な情報が流れ、未だコレラ感染のない地域へも大きな影響を与えました。

千葉市域での実際の被害状況について詳細は不明ですが、千葉町で「半時コロリ」が流行し、佐倉藩の医学所がその治療に尽力したことや、寒川宿など海岸附きの村々でやはり流行が見られたということが史料の記述からわかります。一方、内陸の村々では被害が出て一人くらいだったり、まったく死人がいないというような報告もされているので、比較的影響は少なかったものと思われます。

とはいえ、江戸での大流行を知った人々の不安はやはり大きく、平川村(現緑区平川町)では、名主が関東取締出役からの「異病」つまりコレラの養生法についての触を写し、併

せてその時の村での様子を記しています。将軍が亡くなった時期と重なり鳴物停止の触が出されていたため、大規模ではなかったようですが、村全体でコレラ除けの祈祷をしたり、別の日には若者組が村内の四つの神社にお百度参りしたりしています。またこれらの記事の最後に、変わった形の星が出ており、動きが異様であるため謹んで畏れるべきであると記してあり、原因のわからないコレラに対しての恐れがうかがえます。

市域に所領を持つ生実藩では、領内にコレラが入り込まないように藩が祈祷を行いました。年明けにはコレラが下火になったため、江戸の生実藩家中の人間も寄附金を出し祭礼を行っています。このとき地回り村々(生実近辺の領内村々)は揃いの襦袢を用意して金棒つきや踊り子などを出し、屋台が出たりして見物人が何万人も来たという記述があります。コレラ終息を祝う祭礼が、藩が関わって大々的に行われたということから、やはり当時のコレラへの脅威の大きさがわかります。

明治12年(1879)には全国で死者10万人を越える爆発的な流行があり、その後もたびたび流行をくり返したコレラは、明治初期の衛生行政に大きな影響を与えていくことになりました。

## 平成22年度 千葉市史主催各種イベントのご案内

### 1 市史研究講座

定員200名、各講座90分。会場：千葉市民会館小ホール。日程：6月26日・10月30日の二日間(いずれも土曜日)。時間：10時30分～16時40分。

第1回 6/26	1	房総酒井氏について 滝川恒昭氏(千葉県立船橋二和高等学校教諭)
	2	戦国時代の千葉氏御一家 黒田基樹氏(駿河台大学准教授)
	3	享徳の乱と房総 峰岸純夫氏(東京都立大学名誉教授)
第2回 10/30	1	戦後町村合併をめぐる紛争―幕張町を中心に― 中村政弘氏(四街道市立旭中学校教諭)
	2	千葉を愛したフランス人画家ビゴ― 清水勲氏(ビゴ―研究家・元帝京平成大学教授)
	3	県都千葉町の町村制 神山知徳氏(昭和学院中学校・高等学校教諭)

※第1回は6/1号、第2回は10/1号の市政だよりで募集。

### 2 古文書講座

#### 初級古文書講座

古文書読解初心者を対象。テキストは江戸時代に書かれた古文書の複写。くずし字の基礎を学ぶ講義形式の講座。同内容

#### 千葉市の歴史に関わる資料を探しています!

市史編さん担当では、千葉市の歴史に関わる資料を探しています。皆さまのお宅に古い文書や写真などがございましたら、ぜひ市史編さん担当(TEL 043-222-8231)までお知らせください。また、現在、近現代編の刊行に向け聞き取り調査も行っています。戦時中や戦後の体験など貴重なお話をぜひお聞かせ下さい。

で前期・後期の2回開催(各5回)。前期は6/12・6/19・7/3・7/24・7/31(何れも土曜、5/15号市政だよりで募集)。後期は未定。講師は高見澤美紀先生(千葉市史編集委員)。

#### 中級古文書講座

古文書に慣れ、ある程度読める方を対象。テキストは江戸時代に書かれた古文書の複写。全5回。日程は未定。講師は後藤雅知先生(千葉大学教育学部准教授、千葉市史編集委員)。

※何れも定員30名。会場は千葉市立郷土博物館講座室。

どの講座も往復葉書でのお申し込みです。**住所・氏名(ふりがな)・年齢・性別・電話番号を明記**のうえお申し込みください。

詳細は市政だより・千葉市立郷土博物館HPでご確認ください。  
[http://www.city.chiba.jp/kyoiku/shogaigakushu/shogaigakushu/kyodo/kyodo\\_top.html](http://www.city.chiba.jp/kyoiku/shogaigakushu/shogaigakushu/kyodo/kyodo_top.html)

**申込み多数の場合、抽選となります。予めご了承ください。**

### 3 市史編さん40周年記念企画展

「千葉市の戦国時代城館跡 PART 2」

会期：～6月27日(日) 会場：千葉市立郷土博物館2階 現在、展示している企画展の延長をします(右記参照)。

あとがき

ちば市史編さん便り4号をお届けします。

今回は、市史協力員の皆さまより、古文書整理の過程で得られた成果を報告していただきました。週1回という限られた時間のなか、作業を進めながら精力的に研究したものです。地域の史料は、地域住民が使うことに意味があると思います。そうした意味で貴重な報告となりました。ありがとうございました。



# 編さん便り

Chiba-shishi News Letter NO.4 2010.3

千葉市史編さん担当

〒260-0856

千葉市中央区亥鼻1-6-1

千葉市立郷土博物館

TEL 043-222-8231

## 千葉市立郷土博物館4階展示室

### リニューアルのご案内

40年の長きにわたり、市民に愛されてきた郷土博物館のプラネタリウムが科学館へ移動してからはや数年がたちました。

このたび、平成22年4月よりプラネタリウムのあった4階スペースを千葉市の近現代史の展示室として改修しました。

これまで郷土博物館ではパネルによる近現代史の展示を行っていましたが、今回戊辰戦争以後、明治・大正・昭和の千葉市について、実物の資料や写真パネル・図版・映像を用いた更にわかりやすいものへ変わります。特に昭和期は**平和資料コーナー**として、戦前の軍都として活況を呈した千葉の姿、戦中の空襲の状況や当時の生活、戦後の復興事業などについて資料を展示します。また、戦前・昭和40年代の住宅内の様子を再現し、それぞれ当時使われていた日常生活の道具などに直接触れていただけるような**体験学習コーナー**も設けます。実際に見て、触れていただくことで、よりいっそう千葉市の近現代史を身近に感じていただければと思います。

現在の千葉市の姿に直接つながる時代ということで、多くの市民の皆様に興味を持って頂けるような展

示にしたいと思っています。また、現在編さんを進めています『千葉市史 史料編 近現代』にも大きく関わりますので、随時成果を反映させていくつもりです。多くの方々のご来場をお待ちしています。

なお、平成21年11月より2F展示室において市史編さん40周年記念企画展「千葉市の戦国時代城館跡」を開催していますが、4F展示室オープンにあわせ6月27日(日)まで延長する運びになりました。「**千葉市の戦国時代城館跡 PART2**」と題し、展示の一部も入れ替え、新しい資料として原文書(はらもんじょ)や生実陣屋の絵図など、追加展示していく予定です。

『千葉市の戦国時代城館跡』

A4判 500円

※郷土博物館受付でお買い求め頂けます。



## 新刊のご案内



最新23号は、今後刊行予定の『千葉市史 史料編 近現代』を視野に入れて、特に近現代史を充実させた内容になっています。

目次：【紙上☆古文書講座】近隣向けの醤油造りと奉公人

浜野昇と稲毛海気療養所

千葉県の自治体警察

下志津軍用地開拓の記憶(その3)

【研究ノート】戦国期佐倉千葉氏の発給文書の一形態

【史料紹介】下志津陸軍飛行学校の航空写真について

『千葉いまむかし』は千葉市立郷土博物館受付でお求めください。郵送もできます。

B5判 95頁 定価500円 3月31日刊行

## 『千葉いまむかし』23号が刊行されました